

# 命・人権を守る社会こそ

## きょうされん 全国大会に2500人



ステージ企画「共同作業所づくり運動・50年ものがたり」で歌声を披露する人たち 15日、札幌市

### 札幌で

障害者の社会参加、地域での豊かな暮らし

をめぐす、きょうされんの第40回全国大会が15日、札幌市で始まりました。当事者約750人、ボランティア約

300人など、のべ2500人が参加しました。大会は16日まで。

開会あいさつで、西村直（ただし）理事長は「命と人権がしっかりと守られる、安全で平和な社会づくりを歩んでいく決意を、皆で新たに確かめ合おう」と呼びかけました。藤井克徳専務理事が基調報告しました。

ステージ企画では、きょうされんの前身となった共同作業所づくり運動が50年を迎えたことにちなみ、最初の作業所ができた愛知県などから「50年ものがたり」が語られ、全国各地の支部が歌声を披露しました。

精神科医の香山リカ・立教大学教授や北海道大学の野武治名誉教授、金沢大学の井上英夫名誉教授、北海道

新聞の佐藤一記者を講師に迎えた特別分科会「生きたかったら相模

原障害者殺傷事件から1年の今を検証する」には、会場いっぱい

の376人が参加。香山さんは、日本に差別扇動、排外主義がまん延していると指摘。「おそらく彼（植松聖被告）もそういった情報にアクセスし、染まっていったのではないか」と話しました。

参加者は「たとえ寝たきりでも、生きていくだけで命は尊い」「時間が平等なように人の命も平等だ」「事件を忘れず一人ひとりに考えてほしい」などと発言しました。日本共産党の嶋山和也衆院議員をはじめ、各政党の道選出国會議員が参加しました。

# 人のつながり 安心に

## きょうされん全国大会終わる



大会旗を尾藤・京都大会実行委員長(右)に手渡す  
北村・北海道大会実行委員長(左)＝16日、札幌市

### 札幌

「あたりまえに働きえらべるくらし」をスローガンに15日から札幌市で開催されていた、きょうされん第40回国大会は16日、のべ2500人が参加し、閉会しました。

「働く」「地域・協同」「憲法26条と障害のある人の生活保障」などをテーマにした分科会や利用者フォーラムを行いました。

分科会「地域・協同」では障害者権利条約を地域に広げるための協同の取り組みを交流。

埼玉・川越いもの子作業所の大皇宗宏施設長が「福祉祭りに川越市のほとんどの福祉施設が参加した。施設のつながりが強まり、仲間の顔がよく見えるようになった」と報告しました。

ながっているかが安心・安全への分かれ道です」と話しました。

閉会全体会では、安川雄二副理事長が「困難に直面した時こそ、きょうされんは全国一体で乗り越えてきた。そのことを実感できた大会だった。学んだことを地域に持ち帰り、

来年は今年の倍の参加者にしよう」とあいさつ。北村典幸大会実行委員長、北海道利用者部会「どさんこファイターズ」の柳澤敏郎会長が次回の京都大会にエールを送りました。

「障害者権利条約をベースに、すべての会員が力を結集して、新ビジョンづくりを成功させよう」とした大会アピールが満場の拍手で採択されました。